



教会だより ミルトス

ミルトスは、水がなくても育つ強い木であることから不死のイメージがあり、祝福と繁栄の象徴の木と言われている。

日本バプテスト教会連合
八千代キリスト教会

牧師 小林政和

八千代市大和田新田 94-77

Tel:047-450-1536・Fax:047-473-3925

Eメール: gpnng725@gmail.com

URL/<https://yachiyokyokai.org>

郵便振替:00190-4-554373

今年のみ言葉 ローマ人への手紙 8 章 34 節

「だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていただくのです。」

どなたでも ご自由にお入り下さい。お待ちしております。
日曜日・午前10時30分・礼拝
水曜日・午後1時30分・祈禱会

「千葉豪雨」

牧師 小林 政和

真夏の太陽がまばゆいので、サングラスを掛けました。少し茶色が入っていて、一面が茶色に少し暗くなり、肉眼で見る世界とは別の景色になりました。サングラスを取ると、また真夏の太陽が輝いていました。

8月13日(木)、午後5時頃から急に集中豪雨が起きました。当八千代市では見る見るうちに道路が冠水し30cm ほど水が溜まり、大型自動車がそこを水しぶきを上げながら走り出します。私の軽自動車ではそこは通れないと判断して別の道を選んで帰りました。幸い夕方7時半過ぎから急に雨が小降りになりましたので、八千代・習志野・船橋市は洪水になることなく、水が引いてくれました。隣家の人は冠水した道路で立ち往生し、外へ逃げられないと感じ、車の中にとどまること4時間だったそうです。冠水の状況をテレビで見て、千葉豪雨に対するお見舞いの電話・メールをくださる方々に、「私の教会と我が家は高台にあるので助かりました」と答えていましたが、後になって同じ教団の真砂教会(千葉市美浜区)は、床上60cm 浸水したという情報を聞いてびっくりしました。翌々日は大雨など嘘のように日が照り輝いていました。深く浸水したところにあった車はエンジンが動かなくなって、そのまま道の端にいや、道路の真ん中に立ち往生して、止まったままになっています。千葉県下で2500台の車が動かなくなり放置されていますが、千葉県のレッカー車では数に限界があり、故障車の全部を移動させるには時間がかかることも知りました。

嵐は止まりました。しかし豪雨の前とは異なり、浸水による大きな爪痕が残されていました。死者13人、住宅の床上・床下浸水は3500棟であったと、(だいぶ後になって)報道を聞きました。自分たちの市町村は災害が少なかったと喜んでいるときに、千葉県の他の市町村では大きな被害があったのです。それを知らないで、お許し下さい。あの冠水による洪水のような場面があったかと思うと、水を引くと嘘のような平和な場面が変わります。

私は神の国、天国に入るのも同様なことが起きるのではと思います。私たちは肉体で見ていた世界と全く異なった世界に突然入るでしょう。そこは地上で体験したことのない世界です。そんな新しい境遇に入るのがもうすぐかもしれません。



7月8日(水)祈禱会

毎週水曜日の祈禱会は、聖歌を歌い、聖書の勉強会が中心になります。小林先生のメッセージを受けました。そしてそれぞれに祈禱課題を立てて祈りました。(下橋)



教会の花壇

ヒマワリの花が1本だけ見事に咲きました。隣に植えた朝顔も負けずと咲いています。多くはまだ蕾ですが、頑張りました。(7月22日撮影)下橋



8月16日の日曜礼は小林義宣兄の手で

この日の礼拝は、小林牧師に代わり、小林義宣兄により、執り行われました。賛美・交読・祈り・紙芝居・メッセージ・頌栄と滞りなく進みました。

義宣兄のメッセージは、プロジェクター映像を使って分かりやすく、中身の濃いもので、感動しました。(下橋)



小林牧師は所沢バプテスト教会へ

西武新宿線の「航空公園」駅にある所沢バプテスト教会の礼拝に、参加させていただきました。小川望師の司会説教のもとに、み言葉をじっくり聞かせてもらいました。息子さんの小川光兄は、連合の青年宣教主事として各教会に奉仕に行かれ、KGK

主事として夏季学校キャンプ(松原湖)へ参加されるなど大忙しです。聖契神学生として学びをもらいます。お祈りくださいとのことでした。(小林)



メンバーからの便り

「苦しみにあったことは私にとって幸いでした。

植 啓子

それによって私はあなたのおきてを知りました。」詩篇119:71



先日、私の甥の奥さん、倫代さんが召されました。大学1年と中学3年の娘がいて、まだ44歳の若さでした。長女の高校入学を祝った直後に膵臓がんが見つかり、そのショックは計り知れませんでした。しかも、がんは手術が困難な場所にあり、重粒子線という放射線治療の後、抗がん剤治療を続けることになりました。最初から治る見込みは少ないと言われ、只々希望を捨てず治療を続けるしかありませんでした。様々な副作用に苦しみながらも、まずは上の子が大学へ行くまでと目標を決め、ひたすら耐える日々でした。精神が耐えられなくてUPダウンする日も多くありましたが、そんな苦しい生活の中で彼女が言った言葉が忘れられません。「病気になることは苦しいことやけど、考えや見方が変わり、色んなことが当たり前でないことがわかった。」「これまでで今が一番幸せです。」と。

彼女は綺麗な人で美容やファッションに興味があり、それに関連する仕事を始めたいと思っていました。しかし日常生活すらままならない身になって、自分の力で生きているのではないこと、いのちや家族というもっと大切なものを知ったのだと思います。周りからみれば、何と不幸な人かと思われる境遇です。しかし哀れみ深い神さまは、このような状況の中にもあってもみ心を知る幸いな人へと変えてくださったのです。

教会及び連合のスケジュール(予定)

- 4月19日(日) 教会総会
- 4月29日(水) 連合・スプリングセミナー
- 5月24日(日) 牧師は東京地区合同聖徒記念礼拝(武蔵野霊園)に参加
- 6月02日(火) 野崎宅家庭集会
- 6月18日(木) 横田早紀江姉を囲む祈り会
- 7月13日(月) 東京地区教会の牧師会、夕方東京地区連合委員会
- 7月31日(金) 「ヤコブの梯子」原稿締め切り
- 9月06日(日) 運営委員会
- 9月14日(月) 東京地区教会の牧師会、夕方東京地区連合委員会
- 9月17日(木) 横田早紀江姉を囲む祈り会
- 9月20日(日) 創立30周年記念礼拝
- 11月8日(日) 召天者合同記念礼拝

祈って下さい

- 1) 床上浸水した真砂教会の礼拝場の確保と教会の回復のために
- 2) 骨折した小林義宣兄の脚が速く回復できますように
- 3) 施設の「安藤マタイ兄」と、「八木明子姉」の健康と信仰のために
- 4) 吉田照子姉の白内障の手術と回復のために
- 5) 横田めぐみさんをはじめ拉致被害者の方々が、早く家族のもとに帰れるように
- 6) ロシア軍に侵攻されているウクライナに、平和が回復するように
- 7) アメリカ・イスラエルとイランの間での戦争が終結し、ホルムズ海峡で安全運航ができますように
- 8) 三郷教会の大澤美保夫人の、抗がん剤治療が副作用なく用いられ、健康が回復できますように
- 9) 上福岡教会において、よい時に良い牧師が与えられますように

3分間講座

三浦綾子の小説「塩狩峠」から学ぶもの

三浦綾子の小説「塩狩峠」は、キリスト教徒としての愛と信仰心から、自分の命と引き換えに、多数の乗客の命を救った若い鉄道職員(長野政雄)の実話をモデルにした物語です。読者に真の人生とは何かを問い、また大きな感動を与え、世間のキリスト教に対する目線を大きく変えました。

物語のクライマックスは・・・明治42年2月28日、自分の結納のため妻となる吉川ふじ子の家に向かう途中、鉄道職員の永野信夫(小説の主人公)が乗っていた汽車が塩狩峠にさしかかったとき、突然最後尾の車両の連結器が外れ、一両だけが急な坂を逆走し始めたのです。さらにスピードがつけば、山中のカーブで間違いなく脱線して大事故となります。車中では恐怖の聲が飛び交います。乗り合わせたクリスチャンの永野はとっさに席を立ち、車両のデッキについたハンドブレーキに飛び付き懸命に回したものの効き目はありません。カーブは目の前に迫ります。そのとき永野は、我が身を車輪止めにしようと決心し線路に飛び込んだのです。車両は永野の体に乗りに上げて無事止まりました。

モデルの長野政雄は明治13年愛知県生まれ。母を支え苦労して法律を学んだものの、体を壊して司法の道は諦めます。落ち込む政雄を励まし、教会通いを勧めた友人のおかげで受洗。18歳のとき、北海道の国鉄に勤務する先輩の誘いで旭川へ移り鉄道職員となります。身を慎んで職務に励み、いつも「苦楽生死均く感謝。余は感謝して全てを神に捧ぐ」と書いたメモを懐にしていたそうです。長野の隣人愛が試された2月28日でした。

三浦は長野の人柄にうたれて創作の意欲を燃やし、自分の人生体験を脚色して付け加え、この稿をまとめています。(池田)



塩狩峠の近くに建つ
「長野政雄顕彰碑」

編集後記:ことしの8月も異常な暑さです。熱中症予防の為、水分補給と冷房の使用を盛んに勧めていますが、冷房が苦手な私にとっては、すでに夏バテです。30周年記念誌「ヤコブの梯子」の原稿をたくさんの方々から頂きました。ありがとうございます。9月20日の記念日に発行できるよう頑張っています。教会だより「ミルトス8月号」も無事発行できました。神さまのお導き、感謝です。(下橋)